

手をつなぐ

題字 藤本利夫書

〈1988年7月9日創刊〉
 発行 2014年8月1日 〈毎月1日発行〉
滋賀県民主教育研究所
 〒520-0052 大津市朝日が丘1丁目
 11-3 教育文化会館2F
 TEL & FAX 077-525-5364
 教育110番 077-523-3715
 e-メール shiga.minken@gmail.com
 HP: http://shiga-minken.jimdo.com/
 振替口座番号(会費振込にご利用ください)
 ①ゆうちょ銀行/記号番号 01070-5-40576
 ②滋賀銀行本店営業部/普通口座 511256
 加入者(口座)名 滋賀県民主教育研究所

「生活綴方的大学授業」の試み

―授業感想から見えるもの

福井雅英

6年間の北海道生活を経て、4月から滋賀県立大学で授業している。前期の担当授業のなかに「教職論」という科目がある。主に1年生の教職志望者120余名が受講し、毎回の授業感想を提出してもらおう。そのうち40名弱の感想を抜き出して縮小コピーし、A3判用紙三枚に印刷して全員で共有するようにしている。授業はそれへの私の簡単なコメントから始める。学生の書くものは面白く、大変刺激的でいくつもの研究課題を突きつけられる思いがする。これまでいくつかの大学でも同じ形態の授業を「生活綴方的大学授業」などと名付けて続けて来た。もちろん、どの授業でもその時間のテーマは設定するが、感想は多彩で当初の計画に収まりきらない。出たところ勝負という難しさは、ライブ感覚の刺激がある面白さでもある。県立大での感想の特徴と変化の中から見えてきたことを紹介してみたい。

「みんなの意見が知れてうれしい」

始めは、「同じ話を聞いたのにそれぞれ考

えることがこんなに違うのが面白い」「顔も名前も分からないので率直に意見が書けてよかった」などというのが多かった。「こんなにいろんな意見があると思わなかった」とか、「他の人の意見をこんなに知ったのは初めて」などという感想から、高校までの授業や学級活動でそのような機会が少なくなっているのではないかと心配する。

自分のことを書く人が増えた

しばらく続けていると、母親との葛藤、父親の圧力、不登校やいじめの体験、教師をしている家族の生活状況など、「自分のことを書く人が増えた」と、学生自身がその変化を指摘するようになった。実に生々しい体験と内面の揺らぎを率直に書き綴る「感想」が続いた。そのことを「教育の問題・課題」と結びつけてコメントを返した。「どんな感想にも否定的なコメントがない」と書いた学生がいて、こちらの意識していることに気づいてくれたのがうれしかった。

実質的な紙上討論だ

そのうち、前時の他人の感想に触れた意見などが書き込まれ、交流が進んだ。「知らない人とこんなに意見交換したのは初めてだ。まるで紙上討論だ」という声が出た。これもうれしかった。生活実感に根ざした意見の交流こそ本当の学びのベースになると思うからだ。

このような学生の感想を肴にビールを飲む楽しみをもう少し続けたいと考えている。(ふくい まさひで 滋賀県立大学特任教

《今月の紙面》

- ・「生活綴方的大学授業」の試み―授業感想から見えるもの / 福井雅英 (滋賀県立大) 1p
- ・滋賀県研緊急学習会報告―文科省副読本『私たちの道徳』の問題点と道徳教育のあり方について論議～どうなる道徳教科化? どうする道徳教育 / 本田清春 (事務局) 2・3p
- ・地域から原発のない社会を、一点共同は化学変化を引き起こす / 杉原秀典 (彦根・愛知・犬上原発のない社会をつくる会事務局長) 4・5p
- ・地域労連を民主運動のローカルセンターとして再開～憲法を実現する民意の合意を～甲賀地域で考え、行っていること～田中哲 (甲賀地域労連) ... 6・7p
- ・滋賀の教育動向 (2014. 5～6月) 8p
- ・編集後記 8p